

# 時津川水系河川整備計画

平成 19 年 3 月

長 崎 県

# 時津川水系河川整備計画 目 次

1. 時津川 <sup>ときつがわ</sup> 流域の概要 .....	1
(1) 概要 .....	1
(2) 自然条件及び社会条件 .....	1
(3) 自然環境及び利用状況 .....	2
(4) 関連計画 .....	3
時津川水系流域概要図 .....	4
2. 時津川の現状と課題 .....	5
(1) 治水の現状と課題 .....	5
(2) 利水の現状と課題 .....	5
(3) 河川環境の現状と課題 .....	5
3. 計画対象区間 .....	6
4. 計画対象期間 .....	6
5. 河川計画の目標に関する事項 .....	6
(1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 .....	6
(2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 .....	6
(3) 河川環境の整備と保全に関する事項 .....	6
6. 河川整備の実施に関する事項 .....	7
(1) 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行 により設置される河川管理施設の機能の概要 .....	7
(2) 河川の維持の目的、種類及び施行の場所 .....	9
(3) 流域での取り組みにおける連携や情報の共有化に関する事項 .....	10
時津川水系整備計画位置図 .....	11

## 1. 時津川流域の概要

### (1) 概要

時津川は、流域の上流を長崎県長崎市北部に、中下流を西彼杵郡時津町南部に位置し、標高 413m の烏帽子岳にその源を発し、長崎市の住宅地を東流し、打坂地先で流れを北に変え、中流から国道 206 号沿いに時津町の市街地を貫流し、大村湾に注ぐ幹川流路延長約 3.5km、流域面積約 4.8km<sup>2</sup> の二級河川です。

図 1-1 に時津川水系流域概要図を示します。

### (2) 自然条件及び社会条件

流域の気候は、対馬暖流の影響を受けることから西海型気候に分類され、年平均気温は 18 程度と比較的温暖となっています。また、年平均降水量は 1,700mm 程度（長崎海洋气象台：平成 8 年～平成 17 年）であり、梅雨や台風の影響を受けるため 6 月から 9 月の降水量が多くなっています。

流域の地形は、流域西側の山地部を除いた大部分が丘陵地となっており、下流部の川沿いにはわずかに平地が広がっています。

地質は、主に火山岩の安山岩で、流域中央の河川中流部付近に同じく火山岩の流紋岩が見られます。また、下流部の川沿いにはわずかに沖積層が広がっています。

流域の土地利用状況は、河口から中流域にかけては時津川沿いに商業地域が形成され、住宅や学校、病院、郵便局などの公共公益施設がこれを取り巻くように集積し、近年都市化が進行しています。上流域でも長崎市のベッドタウンとして宅地化が進んでおり、山林は大村湾県立公園を中心として上流の一部に残るのみとなっています。

流域内の人口は、約 1 万 7 千人（平成 17 年 3 月末現在）で、近年増加傾向にあります。このうち、時津町の人口は約 7 千人で、これは町全体の人口のおよそ 1 / 4 に相当します。

流域が位置する時津町には、長崎市と東彼杵郡東彼杵町を結ぶ「時津街道」があり、古くから交通の要衝として栄えていました。現在も河川と並行している国道 206 号のほか、国道 207 号や川平有料道路などがあり、これらの道は幹線道路として重要な役割を果たしています。

### (3) 自然環境及び利用状況

時津町<sup>うちざか</sup>打坂付近からの上流域は、大部分が宅地化されており、山地はスギ・ヒノキの植林やシイ・カシ林が見られる程度です。河岸は護岸整備が施されていますが、河道内の堆砂した河床にススキ、ダンチク群落などが見られ、長崎学院橋付近では、水際から陸域までの連続性が保たれ豊かな植生となっています。また、オイカワ、ヨシノボリなどの魚類やゲンジボタルなどの昆虫類、アオサギなどの鳥類が確認されています。

打坂付近から古川橋<sup>ふるかわばし</sup>までの中流域は、国道206号と並行して流下し大規模な河畔林は存在しませんが、河岸ではオオブタクサ、クサヨシなどの群落、水域ではオオカナダモ、オランダガラシなどの群落が点在しています。湛水域を中心に魚類が数多く生息しており、特にオイカワ、ギンブナの姿が目立ちます。また、トンボなどの昆虫類やイソヒヨドリ、サギなどの鳥類が確認されています。

古川橋からの下流域は、感潮域であることから植生は見られませんが、ボラ、スズキ、クロダイなどの海水魚が確認されており、これらの魚類を捕食するサギ類の姿も見られます。水際部ではヌマガエルや情報不足種（環境省レッドリスト）に選定されているスッポンなどが確認されています。

河川の利用については、時津川の護岸が急勾配であり水辺に近づきにくい状況にあるため、水辺での利用はみられないものの、川沿いの道路や橋が地域住民の生活用道路として利用されています。

水質については、公共用水域水質測定により<sup>しんちばし</sup>新地橋地点（河口から約450m）において水質観測が行われており、水質環境基準はC類型（BOD5.0mg/l以下）に指定されています。同地点におけるBOD75%値は、下水道の普及にともない平成11年以降は基準値を下回り、平成16年は2.7mg/lとなっています。

#### (4) 関連計画

時津川に関連する地域の計画としては、「第4次時津町総合計画(2001～2010)」があり、その中で河川に関連する施策として「時津川などの河川の改良・整備への計画的な整備の促進」、「河川周辺の緑地整備や散歩道の設置など、水辺空間と親しめる空間整備」、「海岸や河川をつなぐサイクリングロード等、回遊して楽しめる環境整備」などが挙げられています。

また、長崎県では基本理念を「豊かな地域力を活かし、自立・共生する長崎県づくり」とする長期総合計画(2001～2010)を策定しています。河川に関連する政策としては、「地域を支えあう安全・安心な社会づくり」、「自然環境と人々が共生する社会づくり」を掲げ、安全で快適な生活環境づくりをめざしています。

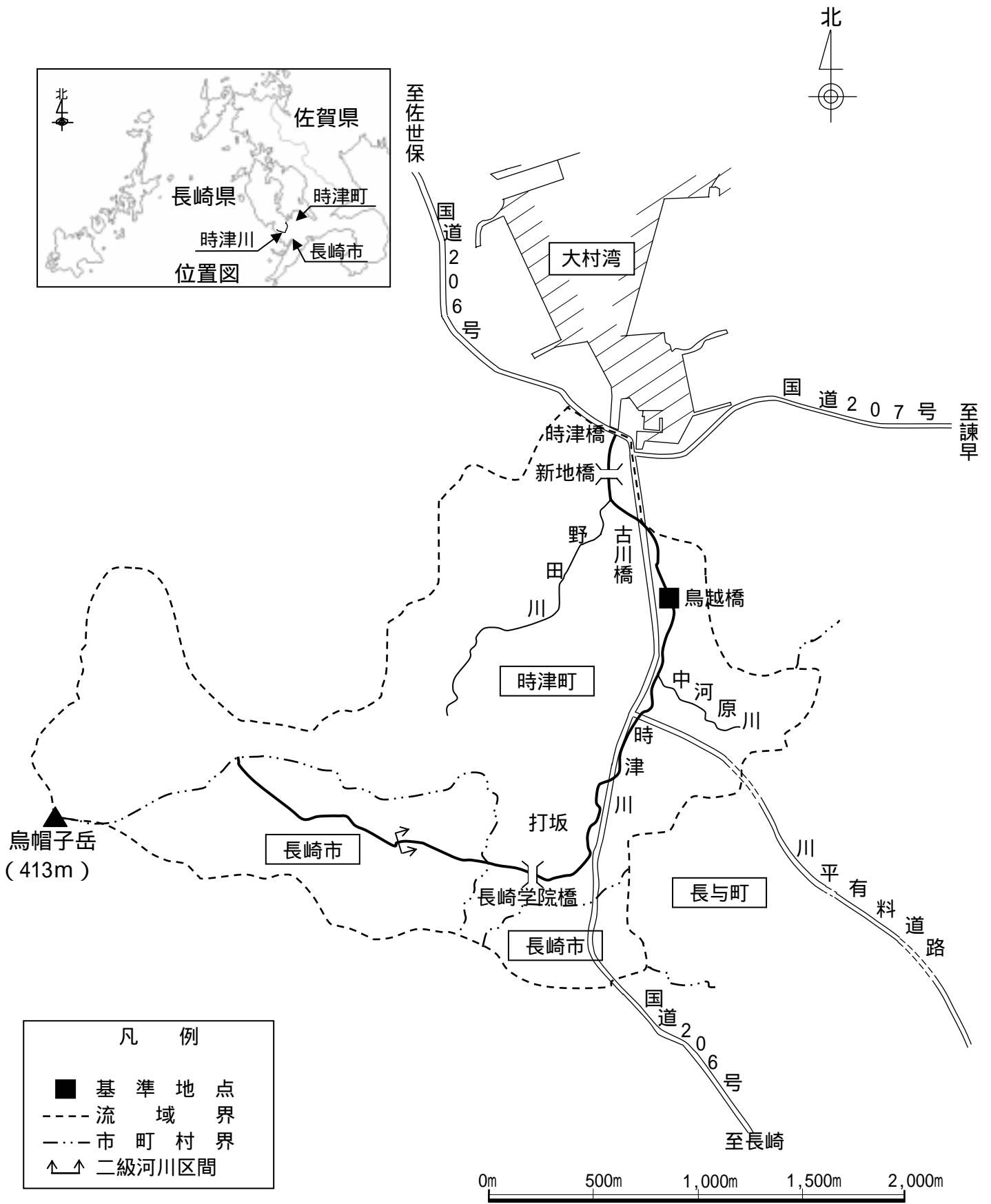


図 1-1 時津川水系流域概要図 (S=1/25,000)

## 2. 時津川の現状と課題

### (1) 治水の現状と課題

時津川は、川幅が狭いことから過去に幾度となく洪水氾濫を起こし、特に昭和57年7月23日の「長崎大水害」の際には、中下流域に位置する時津町の中心街に甚大な浸水被害を引き起こしました。この時、時津川の流域では浸水家屋約650戸、浸水面積約33haなど、総額約26億円にも及ぶ被害を被っています。

これを契機として昭和63年より河川改修が進められ、現在までに河口から約500mの左支川野田川<sup>のたがわ</sup>合流点までの改修がほぼ完了していますが、時津川流域では宅地開発が進み、早急な治水対策の実施が望まれており、今後とも治水対策を継続していく必要があります。

### (2) 利水の現状と課題

時津川の河川水は、沿川の宅地化が進んでいることから農業用水としての利用はなく、時津町における水道用水水源として950m<sup>3</sup>/日の水利権が設定されています。しかし、久留里ダム<sup>くるとり</sup>や中山ダム<sup>なかやま</sup>など他水系の水資源開発施設が整備されたことにより、近年の利用実績はありません。

### (3) 河川環境の現状と課題

時津川では、長崎学院橋付近を除けば、コンクリートブロック積みによる護岸が整備されており、河床には所々に砂州や瀬・淵が形成され、一部に動植物の生息・生育が見られているものの、ほぼ全川において都市型水路の様相を呈しています。

河岸は急勾配となっているところが多く、人々が水辺に近づくことは容易でないため、河川の利用は川沿いの散歩程度にとどまっています。

今後の河川整備においては、現在残っている動植物の生息・生育環境の保全や、地域の人々が水辺に近づいて川と親しめる場所の確保が必要であるとともに、現在も調査研究が続けられている「時津街道」などの歴史的背景への配慮も必要です。

また、水質に関しては、下水道の普及にともない概ね改善していると考えられるため、今後もこの水質を保持していく必要があります。

### 3. 計画対象区間

本計画の対象とする区間は、図 6-3 に示すとおり河口から二級河川上流端までの約 3.5 km とします。

### 4. 計画対象期間

本計画の対象とする期間は、概ね 30 年間とします。

### 5. 河川計画の目標に関する事項

#### (1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

時津川は、想定氾濫区域内における人口・資産の状況や昭和 57 年 7 月の水害を考慮し、概ね 100 年に 1 度の規模の降雨により発生する流量の安全な流下を図ります。

また、計画規模を超える洪水等における被害を軽減するため、地域住民や関係機関との連携の強化、河川情報の共有化の推進に努めるとともに、災害に強い地域づくりのため、土地利用計画との調整を行うなど、流域と一体となった取り組みを推進します。

#### (2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

近年、流域の大部分を占める時津町では地域住民の生活に著しく影響を与えた濁水実績はありません。しかし、今後、河川水を利用する際には、地域住民や時津町等関係機関との緊密な連携のもと、現在の河川環境に配慮しつつ、適正な水利用を図ることにより、流水の正常な機能の維持に努めます。また、引き続きデータの蓄積に努め、今後さらに河川の適正な水利用について検討を行います。

#### (3) 河川環境の整備と保全に関する事項

時津川では、治水面及び利水面との整合を図りつつ、現在ある瀬や淵を残したり、水辺から陸地、上流から下流といった生態系の連続性を確保するなど、現状の動植物の生息・生育環境の保全に努めるとともに、親水性や街道の歴史に配慮した河川空間の整備を図ります。

水質については、時津町・長崎市や地域住民等と連携した水辺の環境美化を行い、現状の水質の保持やさらなる向上に努めます。



## 6. 河川整備の実施に関する事項

### (1) 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

#### 1) 河川工事の目的、種類及び施行の場所に関する事項

河口から長崎学院橋下流の間について、時津川水系河川整備基本方針に基づき計画高水流量（基準地点鳥越橋において  $115\text{m}^3/\text{s}$ ）を安全に流下できるように河道拡幅及び河床掘削等による河道整備を行います。その際、周辺の土地利用に配慮し、家屋等への影響の少ない工法の採用に努めます。

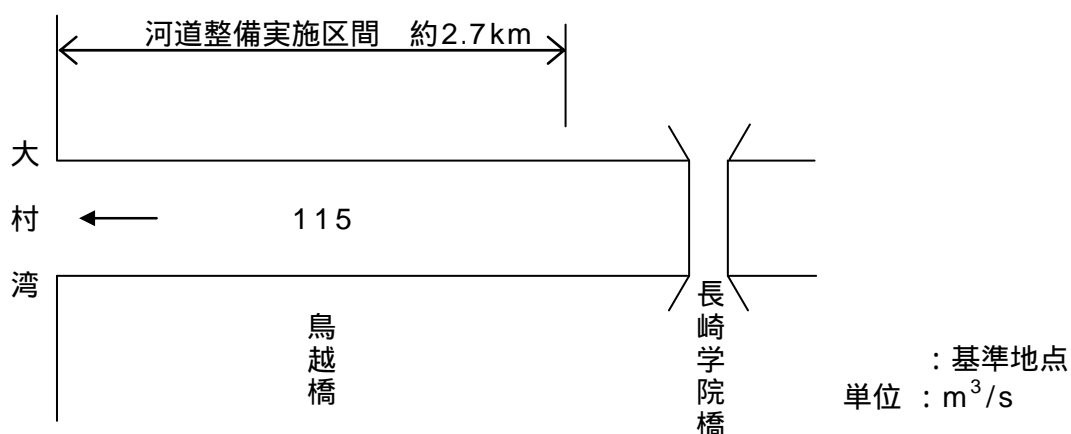


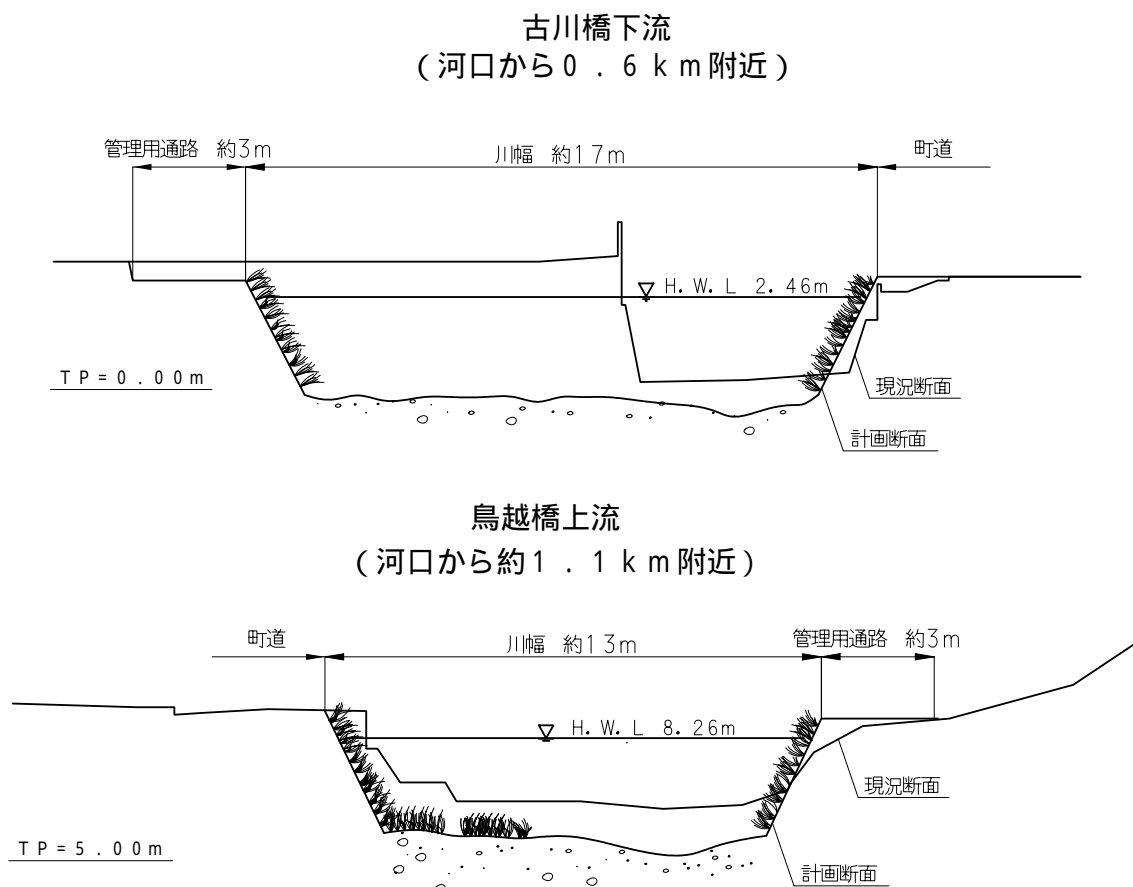
図 6-1 時津川計画高水流量配分図

## 2) 当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

計画高水流量に対する流下能力を確保するため、河口から長崎学院橋下流までの約 2.7 km の河道拡幅、河床掘削、及び護岸等による河道の整備を行います。その際、現在形成されている瀬や淵を出来るだけ残すようにするなど、景観や生態系に配慮した川づくりを行います。

また、植生に配慮した護岸の整備や魚道の設置により生態系の連続性を確保するなど、現在生息・生育している動植物の保全に努めるとともに、人々が水辺に近づきやすいよう、必要に応じて階段や緩傾斜護岸、飛び石等を設置するなど親水性にも配慮します。併せて「時津街道」と近接する部分については、街道の歴史を感じることができる施設の整備に努めます。

主要な地点における計画横断形状は、概ね下記のとおりとします。ただし、横断形状については、標準的なイメージを示したものであり、整備実施の際には現地状況等を調査した上で実施計画を決定します。



## (2) 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

### 1) 河川の維持の目的

「災害の発生防止」、「河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持」及び「河川環境の整備と保全」の各観点から、河川の持つ各機能を十分に発揮させることを目的に河川の維持を行います。

### 2) 河川の維持の種類及び施行場所

#### 護岸の維持・点検・補修

護岸については、亀裂や陥没等の異常がないかを確認し、異常が確認された場合には、必要に応じてその補修工事を実施します。

#### 河積の確保

河道内の土砂の堆積状況などを確認し、必要に応じて堆積土砂の除去を行います。また、流水の阻害となる河道内の植生については適正に管理します。

なお、土砂除去及び植生管理にあたっては、河川環境へ極力配慮します。

#### 水質の改善と美しい景観の確保

下水道事業や水質に係る地域の活動等と連携を図るとともに、美しい川づくりのため、ごみ投棄防止の働きかけを行うなど地域住民の協力のもと、水質の改善・美しい河川景観の確保に努めます。

### (3) 流域での取り組みにおける連携や情報の共有化に関する事項

#### 1) 流域での取り組みにおける連携の強化

時津川をよりよい川とするためには、地域住民と河川管理者が「川は地域共有の公共財産である」との認識のもと、連携して川を守り育てていくことが重要です。そのために、川の優れた価値を共有するための情報の発信や、河川清掃等の地域住民の自主的な活動に対する支援を行うなど、連携のための種々の方策を講じるように努めます。

また、災害に強い地域づくりのため、土地利用計画との調整を行うなど、流域と一体となった取り組みを推進します。

#### 2) 河川情報の共有化の推進

計画規模を超過する洪水や整備途上における施設能力以上の洪水等に関しては、洪水による被害を最小限に抑えるために、関係機関と連携し警戒避難及び情報連絡体制の整備等のソフト対策を総合的に実施するとともに、ハザードマップ作成に向けた協力を行います。また平常時においても、ホームページ等を通じて河川に関する情報の発信及び共有化に努め、地域住民とのコミュニケーションの充実を図っていきます。

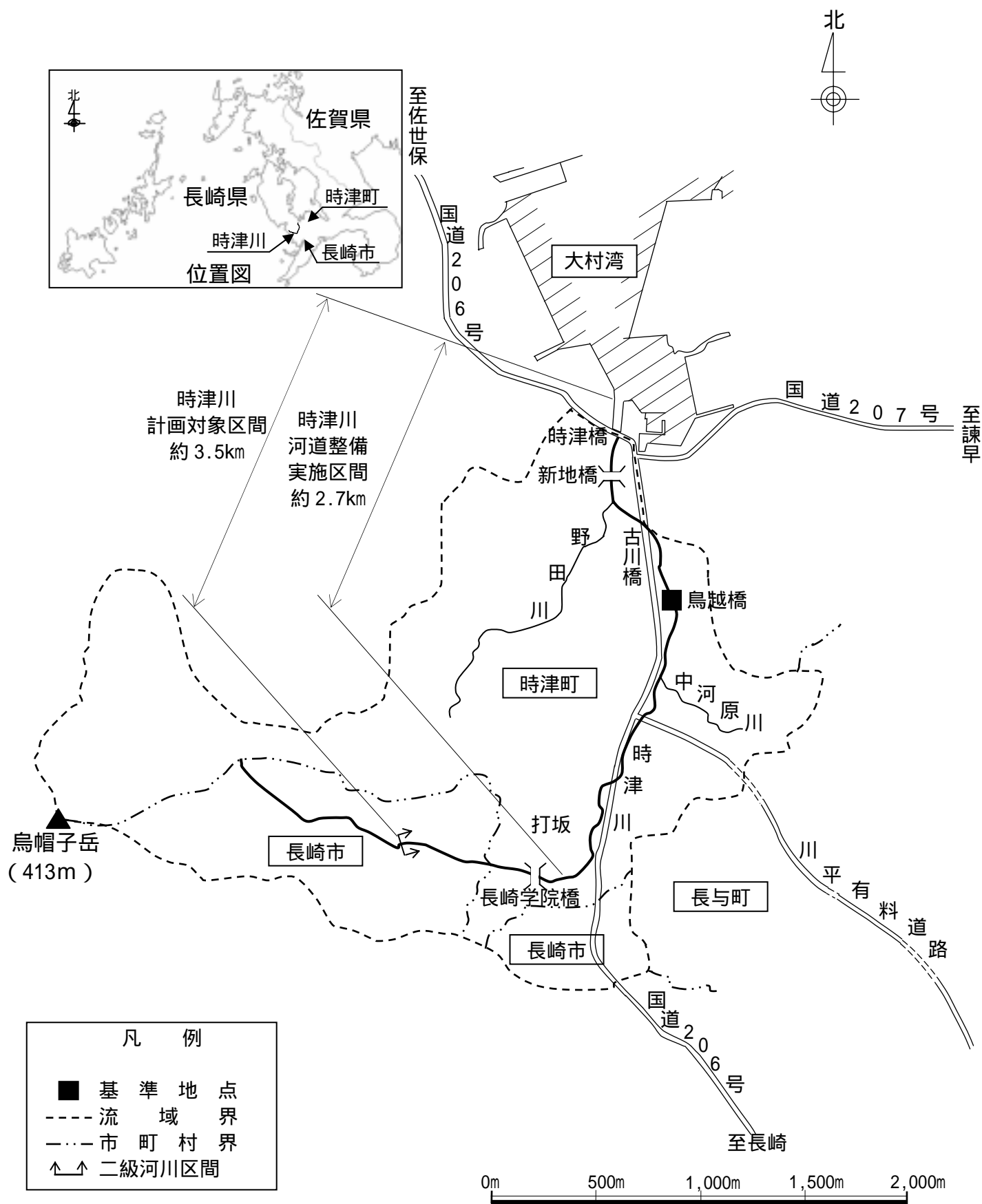


図 6-3 時津川水系整備計画位置図 (S=1/25,000)